

# 三段跳びにおける観察的評価基準の作成

～中学校体育授業に焦点を当てて～

菅原 慎平 (京都教育大学大学院)

## 1. 目的

本研究の目的は、中学校体育授業における三段跳びの動作を評価する観察的評価基準を作成し、その有用性を明らかにすることである。

## 2. 研究方法

Figure1 は観察的評価基準の作成手順を示している。作成した評価基準の有用性を明らかにするために、中学生 30 名 (男女各 15 名) の動作を撮影し、三段跳びの経験や技能レベルなどが異なる 3 名で評価し、その信頼性、客観性および妥当性を検討した。

観察的評価基準に基づく動作の評価は、各観点のレベル 1~3 をそれぞれ 1~3 点で評価し、後述する部分評価 5 観点の総得点を算出した。その後、同一対象者の動作を 2 回評価した際の一致度で信頼性を、3 名の観察者間の評価の一致度で客観性を、跳躍距離と各動作得点および総得点との相関関係で妥当性を評価した。

なお、信頼性、客観性および妥当性の評価には、Pearson の積率相関係数、Spearman の順位相関係数および Cohen の  $\kappa$  係数を用いた。

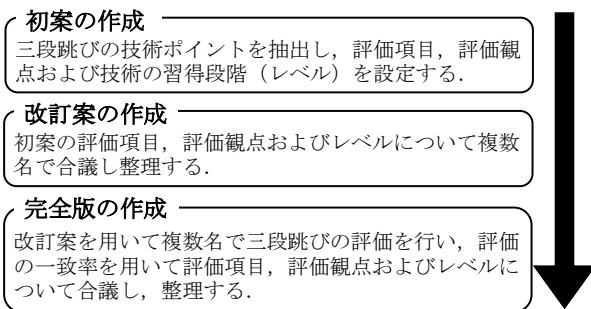


Figure1 観察的評価基準の作成手順

## 3. 結果と考察

### 1) 観察的評価基準の作成

Table1 は作成した観察的評価基準を示している。3 回にわたる合議により、評価観点は“スピードの獲得”、“ホップ時の脚の入れ替え”、“ステップのスイング”、“ジャンプの力強さ”、“着地動作”の部分評価 5 観点と“跳躍比のバランス”の全体印象 1 観点で構成して、各観点について、3 つまたは 2 つの評価レベルを設定した。

### 2) 信頼性、客観性および妥当性の検討

信頼性について、3 名の観察者内の相関係数の平均値では、“ジャンプの力強さ”を除く 5 観点において有意に強い正の相関関係が認められ ( $p < 0.001$ )、“ジャンプの力強さ”は有意な中等度の正の相関関係が認められた ( $p < 0.001$ )。また、 $\kappa$  係数は「だいたい一致する」以上の判断ができる結果であった。以上のことから、十分に信頼性の高い評価基準であることが明らかとなった。

客観性については、1, 2 回目それぞれの観察者間の相関係数の平均値において 6 観点全てで有意に強い正の相関関係が認められた ( $p < 0.001$ )。また、 $\kappa$  係数は「かなり一致する」と判断できる結果であった。以上のことから、十分に客観性の高い評価基準であることが明らかとなった。

妥当性については、男女別あるいは全体において、跳躍距離と総得点との間に有意に強い正の相関関係が ( $p < 0.01$ )、女子および全体では、有意な中等度の正の相関関係が認められた (女子:  $p < 0.05$ ; 全体:  $p < 0.001$ )。したがって、部分評価である 5 つの観点の動作得点の合計が高いほど、跳躍距離は長くなり、十分に客観性の高い評価基準であることが明らかとなった。

## 4. 結論

本研究で作成した三段跳びの観察的評価基準は、信頼性、客観性および妥当性が十分に高く有用なものであった。今後は、作成した観察的評価基準を用いた体育授業について検討していく。

Table1 本研究で作成した観察的評価基準

項目	観点	レベル		
		レベル1	レベル2	レベル3
助走	スピードの獲得	踏切に向けて大きく加速している (踏切前にストライドが広い)	スピードを獲得していないが踏切に向けて維持または加速している	スピードを獲得しており踏切に向けて維持または加速している
	ホップ時の脚の入れ替え	踏切時の膝があまり曲がっていない	踏切時の膝が曲がっているが膝が十分に上がっていない	踏切時の膝が曲がっており膝が十分に上がっている
跳躍	ステップのスイング	腾空時間が明らかに感じられない	腾空時間が感じられるが踏切の膝が水平程度まで上がっていない	腾空時間が感じられ踏切の膝が水平程度まで上がっている
	ジャンプの力強さ	上半身が前傾または膝が下を向いており膝があまり上がっていない	上半身が前傾または膝が下を向いているが膝が水平程度まで上がっている	上半身が起きており膝が水平程度まで上がっている
着地	着地動作	両足を揃えて着地をしていない (片足で着地している)	両足を揃えて着地している (着地の姿勢が高い)	膝を前に出して両足を揃えて着地している (着地の姿勢が低い)
全体印象	跳躍比のバランス	3歩の距離のバランスが極端に崩れていない	-	3歩の距離のバランスが崩れていない

※「着地」とは、踏切時の足の数 (スイングする側の脚) を指す。  
※「跳躍比のバランス」とは、主に全体におけるステップの跳躍比の高さを参考にするとよい。